

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	メディアリテラシーB		
英文授業科目名	Media Literacy B		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-選択科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	前澤 哲爾(学内連絡教官 小菅 敏夫)		
居室	全国フィルム・コミッション連絡協議会		

公開E-Mail	授業関連Webページ
maezawa@film-com.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
(a)主題：私たち日本人の多くは、メディアが伝えることに対して無批判に受け入れている。この授業を通じて、メディアの実態を客観的に捉え、主体的かつ創造的に考えられる力を養成する。(b)達成目標：知識習得は主たる目的ではなく、自らが好奇心をもって収集した情報を自分の頭で考え、編集し、積極的に発信、発言できることを目標とする。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
メディアリテラシーA

<b>【教科書等】</b>
教科書：なし参考書：菅谷明子著「メディアリテラシー」(岩波新書)、佐藤忠男著「映画の真実」(中公新書)、佐藤忠男著「映画で読み解く世界の戦争」(ベスト新書)、ミドリ・モール著「ハリウッド・ビジネス」(文春新書)、佐野真一著「だれが本を殺すのか」(プレジデント社)、津田正夫編「パブリック・アクセスを学ぶ人のために」(世界思想社)、菅谷実編「映像コンテンツ産業論」(丸善)。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

(a)授業内容：テレビ、ニュース、CM、新聞、出版、映画、パッケージ、インターネットなどを順次取り上げ、その構造を明らかにする。できるかぎり、映像や資料などを用意・提供し、また必要に応じてゲストを招聘し、立体的で体験的な授業を目指す。(b)授業の進め方：常に対話形式をとり、また様々な授業方法によって、全員参加で学習できるようにしたい。学生には積極的な授業への参加を義務付ける。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：出席 15% 授業への参加積極性 20% 期末試験 65% (b)評価基準：以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。(1)今まで気づかなかった疑問を持つこと。(2)自分自身で考えた結果を発表できること。(3)自分が変化・成長したことがあること。

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで、いつでも受け付ける。

### 【学生へのメッセージ】

この授業は学生が積極的に参加することを前提に行なうので、黙ってノートを取るだけでは困る。ましてや睡眠や私語をしにくる学生は、進行の邪魔になるのでご遠慮願いたい。一方、私は学生を眠らせないように工夫をし、エンタテインメント性とドラマ性のある授業になるよう努力する。

### 【その他】